

# 全国スポーツ少年団軟式野球交流大会 兵庫県大会競技規則及び取決め事項

本大会は 2019 年公認野球規則及び競技者必携に定める規則細則、競技運営に関する取決め事項、競技に関する特別規則を準用し、詳細については下記の通りとする。

## 1 規則細則

### (1) チーム編成及びベンチに入れる人員について

#### ① チーム編成と競技者の背番号は以下に統一する。

代表指導者（監督）	1名	背番号 30 番とする。
引率指導者	1名	私服で良い。
団員（選手）	14名以内	背番号 0 番から 99 番までとし、代表団員(主将)は背番号 10 番とする。

代表指導者(監督)・引率指導者は、指導者章と所定のリボンを着用する。

※実施要項で表す大会参加者は、上記 16 名を表す。

#### ② ベンチに入れる人員

上記 1) の他に、指導者(コーチ) 2 名以内、スコアラー 1 名、熱中症対策スタッフ 2 名以内のベンチ入りを認める。

指導者(コーチ)	2名以内	背番号 28・29 番とする。
スコアラー	1名	(襟付きシャツ・チーム帽子着用、短パン不可)
熱中症対策スタッフ	2名以内	(襟付きシャツ・チーム帽子着用、短パン不可)

指導者(コーチ)は指導者章と所定のリボンを着用する。

#### ③ スコアラーについて

スコアラーを必要とする場合は 1 名のみベンチ入りを認めるが、団員以外とし、シートノックやマネージャー行為など、記録に関すること以外の行為は認めない。また、ベンチ入りの際は私服とし、所定のリボンを着用する。

#### ④ 熱中症対策スタッフについて

熱中症対策として、保護者等の大人が 1 チーム 2 名までベンチに入ることを認めるが、熱中症対策に関すること以外の行為は認めない。また、対戦する両チームの分け隔てなく中立的な立場で対応すること。なお、ベンチに入る場合は大会本部へ申請を行い、発行されたパスを携行すること。

スコアラー、熱中症スタッフを加えたベンチ入り最大総数は 21 名とする。

### (2) 用具、装具等及び禁止事項について

- ① 打者用ヘルメットは 7 個以上を用意し、打者、次打者、走者及び走塁指導者(ベースコーチ)は、全員両側にイヤーフラップの付いたものを着用すること。
- ② 捕手は捕手用ヘルメットを着用すること。(捕手用ヘルメットはマスクが分離したものを使用) また、プロテクター、レガーズ、ファウルカップを着用すること。
- ③ 金属・ハイコン(複合)バットは、全日本軟式野球連盟公認(JSBB マーク入り)の物を使用すること。
- ④ 素振り用の鉄棒(鉄パイプを含む)、バットリングはベンチに持ち込んで서는ならない。
- ⑤ 同一チームの代表指導者(監督)、指導者(コーチ)、団員(選手)は、同色、同形、同意匠のユニフォーム・アンダーシャツ・ストッキング・帽子を着用すること。
- ⑥ 金属スパイクの使用を禁止する。

### (3) 応援団等のマナーについて

- ①球場での道具(大太鼓、トランペット等)を使用しての応援は一切禁止する。
- ②投手が投球動作に入ったら、応援はやめること。
- ③自チーム及び相手チームの団員(選手)・審判員に対する野次・ブーイングは、行わないこと。
- ④その他、目に余る応援・試合進行の妨げになる応援・近隣住宅の迷惑となる応援等については本部、審判団より厳重注意を行います。
- ⑤「ごみ」が出た場合、持ち帰ること。
- ⑥指定の喫煙所以外は禁煙となります。
- ⑦公園内での個人のテントの使用は禁止する。

## 2 競技運営に関する取決め事項

- (1) その日の第1試合のチームは、試合開始予定時刻の30分前までに、大会本部が用意する打順表(登録された者の全員を記入したもの)1部(6枚複写)を持って代表指導者(監督)と代表団員(主将)と一緒に本部へ提出し登録メンバーの照合を受けて攻守の決定を行う。打順表へは出場する選手全員を記載しフリガナをつけること。
- (2) 第2試合以降のチームは、前の試合の4回終了前に打順表を提出すること。
- (3) 試合開始予定時間前でも、前の試合が早く終了した場合、次の試合開始を早める場合がある。
- (4) 試合開始時刻になっても会場に来ないチームは、原則として棄権とみなす。
- (5) 試合前のシートノックは5分間とする。ノッカーも選手と同一のユニフォームを必ず着用し、また捕手はプロテクター・レガーズ・ヘルメット、ファウルカップを必ず着用すること。なお、大会運営の関係でシートノックを行わないこともある。なお、シートノック時の補助員はヘルメットを着用すること。また、グラウンド内はベンチに入れる人員に限る。
- (6) 次の試合のバッテリーは、攻守決定後、競技場内のブルペンを使用することができる。なお、球場内でのフリーバッティング(ハーフバッティング、ロングティーバッティング含む)は認めない。
- (7) ベンチ内での電子機器類(携帯電話、パソコン等)及び携帯マイクの使用を禁止する。(メガホンは1個に限り使用を認める)
- (8) 攻守交代時で最後のボール保持者は、投手板にボールを置いてベンチに戻ること。
- (9) 試合中、代表指導者(監督)はグラウンドに入って指示を与えることができる。
- (10) 試合のスピード化に関する事項
  - ①試合の進行状況によっては、タイムを制限することもある。
  - ②投手の準備投球数は球審の指示により行うこと。
  - ③攻守交代は駆け足で行うこと。投手に限り歩いては差し支えない。また、監督・コーチのマウンドへの行き帰りは小走りで行うこと。
  - ④投手は、必ず投手板について捕手のサインを見ること。
  - ⑤打者は、みだりにバッターボックスを外さないこと。サインもボックス内でみること。
  - ⑥内野手間のボール回しを制限することがある。
  - ⑦代打、代走の通告は氏名と共に「代打者」「代走者」の背番号を球審に見せて行うこと。
- (11) その他
  - ①ファウルボールの処理については、両チーム選手が行うこと。  
ベンチ前から外野方向へのボールは両ベンチのチーム選手が処理し、また、バックネット前のボールは攻撃チームの選手が処理しボールボーイに返すこと。
  - ②小雨の場合、日程の都合上、球場が使用可能な状態の場合は試合を行うことがある。
  - ③雨天の際の連絡等について
    - ア. 試合不可能な場合は大会本部からチームに連絡をする。
    - イ. 当日試合を全く行わない場合と、午前中見合わせて午後から行う場合があるので、大会本部からの連絡等について注意すること。

### 3 競技に関する特別規則

- (1) 本大会の試合は、7回戦とする。ただし、健康維持を考慮し、5回終了時以降、試合開始後2時間30分を経過した場合は、新しいイニングには入らない。同点の場合は(4)に定めるタイブレーク方式を行う。
- (2) 本大会の試合については5回を終了すれば試合成立とする。
- (3) 交流試合については7回戦を原則とするが90分の試合制限時間を採用して行う。ただし、最低5回までは行うものとする。また、最終回において同点となった場合は(4)に定めるタイブレーク方式は行わず引き分けとする。  
(90分試合制限とは、90分を過ぎたら新しいイニングに入らないことを示す。)
- (4) 本大会において7回終了時、同点となった場合は次のイニングからタイブレーク方式に入る。タイブレーク方式は、継続打順とし前回の最終打者を1塁走者、2塁、3塁の走者は順次前の打者として、無死満塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。
- (5) タイブレーク方式は最長2イニングまでとし、2イニングを行っても勝敗を決しない場合は、抽選によって勝敗を決定する。
- (6) 抽選方法は、全日本軟式野球連盟『学童野球に関する事項』による。
  - ①試合終了時に出場していた両チームのメンバーが、終了あいさつの状態に整列する。
  - ②抽選封筒(○×各9枚記入用紙)を球審が代表指導者(監督)立会いのもと、先行チームより1枚ずつ交互に選ばせて開封し、○印の多い方を抽選勝ちとする。
- (7) 5回終了以前に降雨、日没等で試合続行が困難となった場合は、継続試合・特別継続試合・大会中止の判断は本部の指示によるものとする。
  - ①継続試合とは、その日中に他の球場で試合を続行すること。
  - ②特別継続試合とは、その日の最終試合が試合続行できず、翌日の第1試合に先立って試合を続行すること。
  - ③大会中止とは、予定している日程で大会が行えなくなった場合。
- (8) 得点差のワールドゲームは採用しない。
- (9) 原則として、ダブルヘッター(同一日2試合)を行わない。ただし、降雨等により大会運営上やむを得ない場合2試合行うことがある。
- (10) 投手の投球制限については、健康維持を考慮し、1日70球までとする。ただし、打撃中に70球に達した場合は、その打者の打撃が完了するまでとする。
- (11) 抗議のできる者は、代表指導者(監督)または、当事者でなければならない。
- (12) 代表指導者(監督)または指導者(コーチ)が、投手のところへ行く回数の制限
  - ①代表指導者(監督)または指導者(コーチ)が1試合に投手のもとへ行ける回数は3回以内とする。なお、タイブレークは2イニングに1回行くことができる。代表指導者(監督)または指導者(コーチ)が、同一イニングに同一投手の所へ2度行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。ただし、交代した投手が、他の守備位置につくことは許されるが、同一イニングには再び投手には戻れない。
  - ②捕手または内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数を3度以内とする。タイブレークとなった場合は、2イニングに1度行くことができる。
- (13) 投手は、変化球を投げることを禁止する。投げた場合はペナルティを課す。

### 4 その他

本競技規則及び取決め事項によらない事項が生じた場合の対応については、主催団体間で協議し、決定するものとする。